

リノベしてステキに暮らす!  
**いくのdeリノベ**

## 第二の人生は “かわいい”長屋とともに。

生野西にある築85年の二階建て。祖父から店主の山田康夫(やすお)さんへと受け継がれた長屋を、お店として改装されました。

コンセプトは“明るい・清潔・かわいい”。  
 外観は、前面を白い木製フェンスで覆うことで、歴史を感じさせる和風の家のイメージをガラリと変え、店内は、白やオレンジの壁が明るさを演出しています。使えるものはなるべくそのままに、模様が入ったすりガラスなど、よく見ると昔ながらのものが。

作業場の中心にある柱もそのひとつ。「これが最初は邪魔だね。でもだんだん慣れてきて。これはこれで面白くなってきました。」と笑顔で話す妻の時代(ときよ)さん。

商品である「おい塩ドーナツ」誕生のきっかけは、ご友人が作る、尾鷲の塩との出会いです。「このうまみのある塩で、卵アレルギーのある孫のおやつを作りたいと思ったんです。フランスパンの生地は卵を使わないことを知って、その生地で作ってみたいなら、おいしくできました。」と康夫さん。

定年後に、このドーナツの販売を思い立ちます。商品化のために、各地を食べ歩き、試行錯誤を重ねました。ちいさなお子さんにも食べさせられるようにと、



▲ 疎開道路から脇道をのぞくと、突き当たりに見える「尾鷲山田堂」さん。



安心安全な食材にこだわり、シンプルな材料だからこそ味も大切に。たどり着いたのは、甘さ控えめで食事にもなる、“やさしい”おやつでした。

10年目を迎えたお店。三世代受け継がれた建物は、リノベーションされ「かわいい」と言ってもらえるようになりました。お店の前の道は、かつて商店街だったそうです。にぎやかだった街並みに思いを馳せる康夫さん。お店であるこの場所に通ううちに、まちづくりへの関心が生まれ、現在は“空き家カフェ”にも参加されています。「住んでいる人が町の人と関わりを持って活動していけば、輪が広がり、町も活性化され、成長していくと思うんです。」と康夫さん。

生まれ変わったこの場所で、今日も朝からご夫妻のドーナツ作りが始まります。

★尾鷲山田堂(おわせやまだどう)  
 生野西4-20-15 ☎06-6717-0140

ブログでは  
 写真を追加して紹介しています。



生野区在住で、古い家屋をリノベーションし、自分らしい暮らしをしている方を紹介してください。

- 応募方法 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。  
 (電話・郵送で受付)  
 ①あなたのお名前・ご連絡先  
 ②紹介したい“お隣さん”のお名前・場所  
 (可能であれば連絡先)

問合せ 区企画総務課 ☎6715-9683  
 〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら  
 区地域まちづくり課 4F ☎6715-9734

## もっと知れば もっと好き

60カ国以上の方が暮らすまち /



Julia Widjaja Kinoshita さん  
 (ジュリア ウィジャヤ キノシタ)

インドネシア出身。高校卒業後、語学の勉強のため中国へ。その後オランダにも5年滞在。2007年、中国で知り合った日本人の夫と結婚し、それを機に夫の生まれ故郷の生野に。貿易、翻訳などの仕事をしながら4歳の娘さんの子育て中。



### 故郷はどんなまち?

ジャワ島にある東ジャワ州の州都、スラバヤ市というところ。私が住んでいたのは海の近くの街だけど、車で少し走ると山や緑がいっぱいの自然が広がっているんです。プロモという活火山があって、山頂から幻想的な日の出が見られます。インドネシアは、多民族で、島ごとに文化も食べ物も違うんです。好きなインドネシア料理はミーゴレン! 目玉焼きを乗せたやきそばで、スパイスが効いていておいしいですよ。



### 生野に来てどう?

みなさん気さくに話しかけてくれるのがうれしい!近所の年配の方が娘をかわいがってくれるんです。娘と夏まつりやだんじりなど地域のイベントにも参加しています。一緒に暮している夫の母には、日本語や日本の料理を教えてもらいました。はじめは日本語がわからなくて電子辞書でやり取りしたことも(笑)。いまでは肉じゃがが得意料理。これから、生野に住むいろいろな国の方とも知り合えたらいいな。

IKUNOX×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみんな通信



ものづくり企業は地域の誇り /

## ピックアップ 生野ものづくり百景

### 紡織機器バネ工業株式会社

町工場が作る配線バーを  
 搭載した鉄道車両は、  
 今日も各地を走り抜ける!



同社が開発した銅製の配線バー。  
 高い通電性、絶縁性を持つ。



代表取締役社長 山田 康光さん

昭和19年に設立。インバータ装置に使われる配線バーを製造。かつて、紡織機械の部品である板バネ加工品を製造していたため、社名にその由来を残している。鉄道車両の床下のボックスには様々な機器が配置されている。それらの機器は電気制御を司るインバータ装置を通し車両とつながっている。そのつなぎ役として以前はケーブル電線が使われていた。しかし、何本も線を這わせるスペースが必要で、配置の際、切ったり曲げたり作業を現場でしなければならなかった。

そこで同社は、機器の間を迂回する曲線を付けた配線バーを開発。省スペース化に成功。

また、受注した設計図どおりにパーツ化でき、誰でも配置できるのが強みだ。メッキや絶縁までの進化しつづける一貫加工で、大手からも厚く信頼を集めている。



▲ メッキ前の状態。同じ形状のものなら重ねることができる。

紡織機器バネ工業株式会社  
 生野区中川2-19-17  
 ☎6754-8811

“きらりと光る”ものづくり企業をたくさん紹介しています。

生野区ものづくり百景

